

視 察 成 果 報 告 書

6 年 1 0 月 2 5 日

犬 山 市 議 会
議 長 柴 田 浩 行 様

議員名 玉置 ゆ き や

下記のとおり、民生文教委員会の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	6 年 1 0 月 2 3 日 (水)
(2) 場 所	京都府舞鶴市役所
(3) 形 態	会派 () : その他 ()
(4) 内 容	中学校の部活動地域移行の取り組みについて学んだ。 令和3年度から剣道、柔道、陸上の3部活から実証事業を行った。令和4年度にはソフトボールと基礎部活、令和5年度にはバレー、バスケット、軟式野球、ソフトテニス、バトミントンなどを加えた10部活で事業を行い、令和6年度から成果を踏まえて地域移行を行った。その中で、父母の送迎の問題や保護者の金銭的な負担を今後どうするのか課題がある。 地域移行には各競技団体の協力は必要不可欠である。土日と平日の指導者が違うことの問題もある。
(5) 成 果 ・ 提 言	基本的な考えは犬山市と大きく違いがないが、舞鶴市は自衛隊海上自衛隊などがあり剣道や柔道の指導をしてくれる人が、多く存在しているので取り組みがスムーズにいったようだ。 ただ、子ども達のアンケート結果によると休日に部活動やクラブ活動にあまり参加したくない声もあり、教育の一環ではなくなる地域でのクラブ活動への移行をするときの子ども達の考え方を、どこまで聞きながら取り組みを進めるのかが鍵になると考える。また、保護者の送迎の問題や金銭的な負担の問題については、保護者に周知をしっかりとしておく必要がある。



視 察 成 果 報 告 書

6 年 1 0 月 2 5 日

犬 山 市 議 会
議 長 柴 田 浩 行 様

議員名 玉置ゆきや

下記のとおり、民生文教委員会の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	6 年 1 0 月 2 4 日 (木)
(2) 場 所	大阪府八尾市役所
(3) 形 態	会派 () : その他 ()
(4) 内 容	「誰一人取り残さない しあわせを感じる共生のまち」 をキャッチフレーズにし重層的支援体制整備事業を進められていた。制度・分野ごとの「縦割り」や「受け手」という関係を越えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を越えて「丸ごと」つながることで住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をもとに創っていく町づくりをされていた。担当課は4人であるが、地域共生推進課「つなげる支援室」が中心となり、庁内や関係部門の連携がしっかり取られていた。断らない支援体制が重要
(5) 成果・提言	公的な縦割りの壁を乗り越えて、様々な部門が協力をしながら体制づくりができていた。当市も、この体制づくりが先ずは重要だと感じた。「つなげる支援室」は調整役となり他部門にすぎ、 「つなげる会議」の中で課題を把握し役割調整も行っており、この会議の重要性を感じた。 また、庁内どの部門の窓口相談者が来ても、断らない体制ができていた。窓口でたらい回しをせず、必ず「つなげる支援室」に情報が集まっている。また各部門にエリアディレクターを設置して総合調整機能や分野統括機能を持たせていた。 先ずは、八尾市の取り組みを当市の担当者に聞かせたい。

視 察 成 果 報 告 書

6 年 1 0 月 2 5 日

犬 山 市 議 会
議 長 柴 田 浩 行 様

議員名 玉置ゆきや

下記のとおり、民生文教委員会の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	6 年 1 0 月 2 4 日 (木)
(2) 場 所	大阪府八尾市役所
(3) 形 態	会派 () : その他 ()
(4) 内 容	中学校の部活動地域移行の取り組みについて学んだ。
	令和 6 年度からモデル事業の実施をされていた。
	現状、少子化によるチームの編成ができない。入りたい部活動がないとの生徒ニーズとの乖離。教職員の負担と指導者不足など様々な問題がありモデル事業実施を計画されていた。
	まずは、拠点校方式の導入と運営団体を外部委託し 2 年間取り組みを行う。予算は 8 7 0 万円となっているが、本格導入するときは、その金額が保護者負担となる。
(5) 成 果 ・ 提 言	基本的な考えは犬山市と大きく違いがないが、運営団体を外部委託していることが違ってた。現状は国からの助成を受けているが、今後は受益者負担となる課題がある。
	また、人材の確保、指導者の確保に向けて大学や地域の競技団体と連携をとる必要がある。
	あくまでも、八尾市は教育の一環として部活動をやっていきたいと発言されていたが、当市は地域での社会スポーツに移行されていくため、地域の競技団体との意見交換をしっかりとする必要が不可欠である。